



もっと知ってほしい

「乳がん」のことと「乳がん検診」の大切さ

日本の「女性の12人に1人」※1が診断される『乳がん』

乳がんは遺伝性のものは全体の少数にすぎず、誰でも罹患する可能性がある病気です。

現在 女性の部位別がん死亡率の「1位は大腸がん」※2 「2位が肺がん」※3 ですが、部位別がん罹患率と壮年層(30歳～64歳)における死亡原因のトップは『乳がん』です。

また20～40代の女性は、**男性の平均の2倍「がん」にかかりやすい**※4という調査結果がでています。

しかし最新データによると、乳がんの全臨床病期における「5年相対生存率は92.9%」※5 「10年相対生存率は82.8%」※6 となっており、日頃の「自己検診」とマンモグラフィや超音波エコーなどによる定期的な「乳がん検診」を受け、「**早期発見・早期治療**」することがとても重要です。

※1 (公財)がん研究振興財団/「がんの統計」15]年齢階級別罹患リスク(2011年罹患・死亡データに基づく)

※2. ※3 厚生労働省「人口動態統計」2015より

※4. 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」/「地域がん登録全国推計によるがん罹患データ(2011年)」

※5. ※6 2016年1月20日 国立がん研究センターの研究班「わが国におけるがん登録の整備に関する研究」

Pink
Ribbon



女性ならではのリスクがあります。
20～40代の女性は
男性の平均2倍
「がん」にかかりやすい。

